

地域で見守り

支えていく

地域包括支援センター ☎1182



鳥羽市の高齢者数を 知っていますか？

市の人口は平成28年7月末現在で19,729人です。そのうち65歳以上の高齢者が6,899人となっております。およそ3人に1人が高齢者となっております。

日本全体で高齢化が進んでいるなかで、鳥羽市も同じように高齢化が進んでいます。

なぜ、見守りが必要なの？

人間は誰もが年齢を重ねるにしたがい、足腰が衰えたり、体力が落ちたり、病気にかかりやすくなったりします。もし、病气やけがをした場合に誰か一緒に住んでいれば発見することができますが、一人暮らしの場合には重篤な病気を患っても病院にかかることができなかつたり、最悪の場合、孤立死をしてしまつことも考えられます。

そこで、地域で高齢者を見守り支えることで重篤になる

ことや孤立死などから防ぐことが少しでも可能になります。

見守りはどうやってするの？

見守りは、日々の日常生活や業務の中でさりげなく行うことが基本です。あまり身構えることなく、まずは近所のお年寄りに挨拶や世間話を

することから始めてみましょう。

そのなかで、ちょっとした気付きが出てきます。このような小さな「気付き」が高齢者のかたを困っていることから早く助けることにつながります。

気になるかたがいたら、地域包括支援センターに連絡してください。

市の高齢者見守り ネットワークの現状

市では、高齢者のかたが住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように、地域のみなさんや関係機関が日常業務や普段の暮らしのなかで高齢者を見守り支えていく高齢者あんしん見守りネットワークの事業に取り組んでいます。

現在、市内には協力店が63店あり、店舗の出入り口など分かりやすい場所に入テッカーを貼っています。みなさんが無理のない程度での見守

りを行い、やさしく高齢者を支えています。

協力店(員) 募集中!

高齢者のかたを見守る事業所や協力を随時募集しています。

見守りは支援が必要なかたをサービスなどへつなげる重要な役割を果たします。少し意識して高齢者の様子を見守り、普段から気にしていることでもいつもと違うことや小さな「気付き」になることがあります。

ご協力いただけるかたは地域包括支援センターにご連絡

ください。

見守りは自分たちでもできます

市の人口の3人に1人が高齢者という状況です。若い人が高齢者を見守るだけでは限界があります。そこで、高齢者同士での見守りも重要になってきます。地域の老人会や友人との集まりなど、世間話をする場に出向くことが、お互いの見守りにつながります。

誰かに見守られる環境を作り、自分のことを見守ってくれる人を増やしていきたいでしょう。

- 最近、急にやせた(または太った)
- 一方的に自分の事ばかり話す
- 昼間でも雨戸がしまっている
- 見慣れない人が出入りしたり、見かけない車が止まっている
- 本人に妄想的な訴えが見られる
- 同じ服をずっと着ている
- 家の中や周りが不衛生である
- 十分に食事を摂っていないようだ
- 同じことを何度も聞かれる
- 急に話をしなくなった



鳥羽市高齢者あんしん見守りネットワーク

